宋恵媛編・解説

在日朝鮮人文学資料集

一九五四～七〇

全3巻

植民地支配から解放された在日朝鮮人たちは、冷戦構造下で生まれた南北二つの国家、そして居住地である日本の政治状況に大きく影響されながらも、独自の文化・文学運動を展開した。日本の読者たちに広く認知されるようになる一九七〇年代以前、先の読めない朝鮮半島の混乱の渦に投げ出された在日朝鮮人作家たちは、何を考え、いかに現実と向き合い、どんな夢を見たのか。長い間、日の目を見ることのなかった、日本の中のもう一つの文化、文学活動の軌跡を蘇らせる。

在日朝鮮人連動史研究会監修

在日朝鮮人資料叢書⑭

緑蔭書房

宋恵媛編・解説

在日朝鮮人文学資料集

一九五四～七〇

在日朝鮮人資料叢書⑭

本資料集の刊行意義

▼朝鮮戦争休戦以後の在日朝鮮人たちの精神史を辿る上での基礎資料。

▼在日朝鮮人文学研究における空白期間である一九五〇、一九六〇年代の実態解明に不可欠な資料。

▼一九四五年以後の韓国文学および朝鮮民主主義人民共和国文学研究の深化の一助となる。

▼在日朝鮮人史、日本戦後史研究においても重要な文献。

▼当時の関係者たちへの聞き取り調査を重ねて収集。日本の国会図書館、公共図書館、大学図書館等には所蔵していない資料を多数収録。

■体裁　全3巻・A5版・上製クロス装・ケース入り
■定価　本体5,6,000円＋税　ISBN978-4-89774-177-2
■刊行　平成28年9月刊

在日朝鮮人資料叢書　在日朝鮮人連動史研究会監修

1. 在日朝鮮人史資料　在日朝鮮人連動史研究会編　全2巻／24000円
2. 在日本朝鮮人商工便覧（一九五七年版）　在日本朝鮮人商工連合会編　6000円
3. 戦後初期在日朝鮮人人口調査資料集　長澤秀編　全2巻／36000円
4. 在日朝鮮人教育関係資料　山田昭次編　全3巻／46000円
5. 朝鮮人強制動員関係資料　裵玲美編　全2巻／24000円
6. 在日朝鮮人留学生資料　福井譲編　全3巻／54000円
7. 在日朝鮮人警察関係資料　金歌吳編　全3巻／48000円
8. 在日朝鮮人生活保護資料　金歌吳編　全2巻／36000円

在日朝鮮女性作品集　一九四五～八四

10. 山田昭次編／裁判資料として現在知ることが可能な埼玉県（熊谷事件・本庄事件他）と群馬県（藤岡事件他）の地裁・東京控訴院判決書等を収録。　全5巻／36000円

関東大震災朝鮮人虐殺裁判資料

9. 東恵媛編／数多くの作品の中から二百編を選び出し、植民地以後の在日朝鮮女性の生活と思想を多角的に理解出来るように、一〇のテーマに分けて編集。　全2巻／32000円

資料メディアの中の在日朝鮮人

11. 外村大・韓載香・羅京洙編／在日朝鮮人の動向・実態・状況を伝えた一般紙の特集記事・連載記事、また総合雑誌の特集記事・連載記事（一九二〇～四四）を収録。　全2巻／18000円

神奈川朝鮮学校資料

12. 大石忠雄編／在日朝鮮人学校問題の歴史的経緯とその実態を正しく理解するための原点となる資料を収録した。五～六ページ。　全5巻／36000円

朝鮮人強制動員韓国調査報告

13. 龍田光司編／常磐炭の田に戦時強制動員された朝鮮人の実態解明と、韓国で被強制動員者の実態を当事者・遺家族から聞き取り調査した報告書。1月刊　全5巻／36000円

在日朝鮮人文学資料集　一九五四～七〇

14. 宋恵媛編／一九五〇年代半ばから六〇年代を中心に刊行された、多彩な在日文学雑誌（『朝鮮文化』、韓国文芸・鳳仙花文芸等全二七誌）を収録した初の資料集。　全3巻／56000円

日本朝鮮研究所初期資料［仮］

15. 井上學・樋口雄一編／戦後日本の朝鮮研究はどの様な形で新たな出発をし、どのの様な課題を抱えていたのか、創設期及び初期の内部資料を収録。　全2巻／価格未定

緑蔭書房
〒173-0004　東京都板橋区板橋1-13-1
電話 03（3579）5444　FAX03（6915）5418
［消費税が別途加算されます］

◉下記の書店にお申し込み下さい。

在日朝鮮人文学関連年表

一九四五年　九月　GHQによる日本国内の刊行物、郵便物の検閲開始。在日朝鮮人発行の日本文、朝鮮文の新聞・雑誌等も検閲の対象に（一九四九年一月まで）

一九四六年　四月　『民主朝鮮』創刊号発行

一九四七年　一〇月　文芸誌『朝鮮文藝』創刊号発行。日本語版六巻と朝鮮語版一巻を刊行

一九四八年　一月　在日朝鮮文学会結成。在日本朝鮮文学者会（四七年二月結成）が、芸術家同盟、青年文学会、白民社、新人文学会と合流して改称した。

一九四八年　三月　五九年六月まで続く

一九四八年　一二月　金達寿『後裔の街』（朝鮮文藝社）刊行

一九四九年　九月　李殷直『新編　春香伝』（極東出版社）刊行

一九五〇年　六月　許南麒『朝鮮冬物語』（朝日書房）刊行

一九五〇年　一二月　朝鮮戦争勃発

一九五一年　一〇月　大村収容所開所。外国人登録法違反者、朝鮮半島からの避難民、亡命者などを一時収容した施設

一九五二年――　張赫宙『呪縛朝鮮』刊行後に日本に帰化。野口赫宙となる

崎朝鮮人文化サークル（機関誌『大同江』）、東海朝鮮文化人協会（同『文化戦線』）、愛知文学サークル（朝文研）、大阪朝鮮詩人集団（機関誌『チンダレ』）、福岡県朝鮮人文芸同好会（『荒波』）等が結成される

一九五三年　七月　朝鮮戦争休戦

一九五五年　五月　在日本朝鮮人総連合会（総連）結成

一九五五年　二月　金時鐘『地平線』（チンダレ発行所）刊行

一九五六年　一〇月　ビョンヤン第二次朝鮮作家大会開催、総連傘下に入っていた在日朝鮮文学会の文学活動を評価。翌月、許南麒、南時雨、金民の三名が朝鮮作家同盟正盟員に選出される

一九五七年　七月　大村収容所内の『大村朝鮮文学会』による文学同人誌『大村文学』創刊号発行

一九五七年　一〇月　『百薬』創刊号発行

一九五七年　一二月　許南麒、南時雨、姜舜の三人詩集『조국에 드리는 노래（祖国に捧げる歌）』発刊。ビョンヤンで刊行された初の在日朝鮮人による詩集

一九五七年　二月　金石範、『鬼の死』を『文芸首都』に発表

一九五八年　一月　『大村朝鮮文学会』会員を含む、大村収容所内の共和国送還希望者九六名が無期限ハンストを決行（二六日）。七月一〇日に二六名が仮釈放される

一九五八年一〇月　総連主流派との論争を経て、『チンダレ』が二〇号で終刊

一九五八年　一一月　『鶏林』創刊号発行

一九五八年　一一月　安本末子の日記『にあんちゃん』（光文社）刊行。日本の読者の間で反響を呼び、翌年五九年に今村昌平監督により映画化される

一九五九年　六月　在日本朝鮮文学芸術家同盟（文芸同）結成（委員長許南麒）。翌七月に大阪支部、一〇月に神奈川支部結成

一九五九年　一一月　朝鮮民主主義人民共和国への帰国第一船が就航

一九六〇年　一一月　文芸同中央機関誌『문학예술（文学芸術）』創刊号発行

一九六〇年　一月　一七歳向けの総連の雑誌『新しい世代』創刊号発行

一九六〇年　四月　韓国、四・一九学生革命により李承晩が大統領辞任

一九六一年　四月　民団、総連の文化人たちが、『祖国平和統一・南北文化交流促進文化祭』共催。八月、『八・一五祖国解放一六周年記念合同文化祭』開催

一九六一年　五月　韓国、軍事クーデタで朴正熙が政権掌握

一九六一年　三月　総合雑誌『漢陽』創刊号発行。非総連系で唯一の朝鮮文雑誌

一九六一年　四月　文芸同中央、金日成誕生五〇周年を記念し作品集『송시（讃詞）』刊行

一九六二年　一月　『韓国文芸』創刊号発行。民団系初の純文学雑誌

一九六三年　一月　『朝陽』創刊号発行

一九六五年　一月　任展慧、『張赫宙論』発表。植民地期の朝鮮人作家の親日（対日協力）問題を追及

一九六五年　二月　日韓基本条約、在日韓国人法的地位協定調印

一九六五年――　朴元俊が新興書房設立。姜魏堂、金石範、呉林俊、李殷直らの著作等を出版

一九六六年　七月　立原正秋「白い磐翼」が第五五回直木賞受賞

一九六六年　九月　金鶴泳「凍える口」が文藝賞受賞

一九六七年　六月　文芸同第四次大会開催。前月の朝鮮労働党中央委員会第四期第一五次全員会議、総連第八次全体大会での唯一思想体制への移行を支持。この前後から作家たちの文芸同離脱が進む

一九六九年　三月　鄭貴文、鄭詔文兄弟が朝鮮文化社設立。金達寿と雑誌『日本のなかの朝鮮文化』刊行開始（『八一年まで）

一九七一年　四月　宗秋月『宗秋月詩集』（編集工房ノア）刊行

一九七一年　七月　金石範『万徳幽霊奇譚』が第六六回芥川賞候補作に選出

一九七一年　一月　李恢成『砧をうつ女』が第六六回芥川賞受賞。外国籍作家として初

一九七二年　二月　朴正熙、維新憲法公布。金日成が社会主義憲法を公布

一九七二年――　ビョンヤンで在日朝鮮青年男女を対象にした第一回文学研修開催

▼刊行の辞

本書は、一九五〇年代半ばから一九七〇年代初めまでに刊行された、在日朝鮮人の文化、文学関連資料を集めたものである。朝鮮戦争（一九五〇年～一九五三年）、資本主義国から社会主義国への大規模な集団移住として注目された、在日朝鮮人たちの朝鮮民主主義人民共和国への「帰国」（一九五九年）、李承晩政権の失脚、朴正熙の軍事クーデター、「文化大革命」（一九六〇年）、在日朝鮮人の日本での法的地位や国籍選択に多大な影響を及ぼした日韓基本条約締結（一九六五年）、金日成による唯一思想体制の開始（一九六七年）等、朝鮮半島における激動の時代に生きた在日朝鮮人たちが、日本で書き、編み、刊行したものである。

この時期の在日朝鮮人文化、文学には、これまで光が当てられることは多くなかった。金達寿や許南麒、あるいは近年注目が集まった五〇年代の詩誌『チンダレ』の金時鐘を例外として、金鶴泳、金石範、李恢成、金泰生、高史明、呉林俊らの文学作品が認知されるようになる以前は、在日朝鮮人文学の「空白期」とみなされてきたのである。だが実際には、本書が示すように、文学的営為はこの時期にもたゆまず続けられていた。そして文学徒たちには、日本への文壇を目指す、あるいは北における新たな国民国家の文学形成の動きに連なる、在日という固有性に向き合って創作する等、さまざまな信念や思惑があった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

本書収録資料には、在日本朝鮮人総聯合会（総連）関連の文芸誌、韓国系の総合文化誌、大村収容所内発行の文芸同人誌、大学生の同人誌等が含まれている。植民地期に創作活動を始めた一世、日本育ちの二世、朝鮮戦争前後の渡日者と、その書き手の背景も多様である。財政難のなか、各地の「在日朝鮮人文学」として一か所に保存されることはなかった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

本書収録資料には、在日本朝鮮人総聯合会（総連）関連の文芸誌、韓国系の総合文化誌、大村収容所内発行の文芸同人誌、大学生の同人誌等が含まれている。植民地期に創作活動を始めた一世、日本育ちの二世、朝鮮戦争前後の渡日者と、その書き手の背景も多様である。財政難のなか、各地の「在日朝鮮人文学」として一か所に保存されることはなかった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

金達寿や許南麒、あるいは近年注目が集まった五〇年代の詩誌『チンダレ』の金時鐘を例外として、金鶴泳、金石範、李恢成、金泰生、高史明、呉林俊らの文学作品が認知されるようになる以前は、在日朝鮮人文学の「空白期」とみなされてきたのである。だが実際には、本書が示すように、文学的営為はこの時期にもたゆまず続けられていた。そして文学徒たちには、日本への文壇を目指す、あるいは北における新たな国民国家の文学形成の動きに連なる、在日という固有性に向き合って創作する等、さまざまな信念や思惑があった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

この時期の在日朝鮮人文化、文学には、これまで光が当てられることは多くなかった。金達寿や許南麒、あるいは近年注目が集まった五〇年代の詩誌『チンダレ』の金時鐘を例外として、金鶴泳、金石範、李恢成、金泰生、高史明、呉林俊らの文学作品が認知されるようになる以前は、在日朝鮮人文学の「空白期」とみなされてきたのである。だが実際には、本書が示すように、文学的営為はこの時期にもたゆまず続けられていた。そして文学徒たちには、日本への文壇を目指す、あるいは北における新たな国民国家の文学形成の動きに連なる、在日という固有性に向き合って創作する等、さまざまな信念や思惑があった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

在日朝鮮人の精神史を辿る上で、大きな手がかりとなる資料群である。

金達寿や許南麒、あるいは近年注目が集まった五〇年代の詩誌『チンダレ』の金時鐘を例外として、金鶴泳、金石範、李恢成、金泰生、高史明、呉林俊らの文学作品が認知されるようになる以前は、在日朝鮮人文学の「空白期」とみなされてきたのである。だが実際には、本書が示すように、文学的営為はこの時期にもたゆまず続けられていた。そして文学徒たちには、日本への文壇を目指す、あるいは北における新たな国民国家の文学形成の動きに連なる、在日という固有性に向き合って創作する等、さまざまな信念や思惑があった。日本の主流文化へ参入できず、かとって南や北の祖国との自由往来するままならないなか、日本の地に縛られる形で行われた在日朝鮮人たちの表現活動。それは、文学とは、ひいては民族や国家とは何かという、根源的な問いを私たちに投げかける。

本書収録資料には、在日本朝鮮人総聯合会（総連）関連の文芸誌、韓国系の総合文化誌、大村収容所内発行の文芸同人誌、大学生の同人誌等が含まれている。植民地期に創作活動を始めた一世、日本育ちの二世、朝鮮戦争前後の渡日者と、その書き手の背景も多様である。財政難のなか、各地の「在日朝鮮人文学」として一か所に保存されることはなか